

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	883 観光振興経費	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
		目	03	観光費
基本 施策	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	細目	336	観光振興経費
		細々目	01	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	550100		担当者
	名称	伊賀支所 振興課		氏名
		連絡先	45 - 9119 (内線) 301	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	イベントに訪れる観光客	※対象件数
成果(どうする)	イベントを開催することにより地域間交流及び、伊賀市について知ることが出来る。	
根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21 事業 内 容	委託料支払先及び委託内容 ・余野公園保勝会・余野公園つつじ祭りの実施。 ・霊山保勝会・さくら祭りの実施 ・白藤保勝会・滝山溪谷紅葉祭りの実施。 ・いがまち観光協会活動支援(観光案内看板等の設置)	
	社会情勢 の変化等	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
霊山桜まつり	回	回	目標 1	目標 1		
			実績 1	実績 1	1	1
余野公園つつじ祭	回	回	目標 1	目標 1		
			実績 1	実績 1	1	1

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
イベント集客数		地域間交流と伊賀市の周知を目的としているため。	人	目標 17000	目標 17000	18000	18000
				実績 17000	実績 17000		
				目標	目標		
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	3,733	3,006	3,100	3,100				
A の 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0	0	0				
一般財源	3,733	3,006	3,100	3,100				
事業投入人件費 (B)	0.3 人	2,160	0.3 人	2,160	0.3 人	2,160	0.3 人	
フルコスト(A)+(B)	5,893	5,166	5,280	5,280				

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
効果性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	実施主体である実行委員会の体制強化が課題であり、まちづくり協議会の協力を得ている。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 桜まつり、つつじ祭及び紅葉まつりへの協力を行い観光情報を発信することで伊賀市の周知を図れた。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	藤澤義彰
【方向性】	現状維持
【理由】	まちづくり協議会等の協力を得ながら地域間交流及び観光資源の活用ができるため。
現時点における課題、その他	市の委託事業として運営されているなかで、各地域のまつり運営に自主性が欠けている。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	各保勝会の自主的な地域イベントとして、現在の委託料から補助金に移行させ、行政の係り無くとも自主運営できる組織づくりを行う。平成25年度をめどに、地域交付金としてまちづくり協議会へ交付し、各地域独自で個性を生かしたイベントとして取り組む。